

### 調査結果に対する考察

本調査海域は、戦前および戦後（1960/61年度漁期まで）の主なヒゲ鯨漁場（マッコウ鯨などの様な歯を有する歯鯨類に対し、ナガス鯨などの様な、歯の代りにヒゲを有する鯨をヒゲ鯨と呼ぶ）であつた。

同海域における最近の調査が実施されていないため、資源の状態は不明であつたが、今回の調査から、少なくともシロナガスおよびナガス鯨の資源は、利用に適しない程度に減少しているものとみられる。

次に、イワシ鯨の発見は、一群四頭のみで、近年高緯度への回遊量が増加傾向にあるといわれる本鯨種にしては、非常に少ない結果となつている。勿論、本調査のみから、当海域の分布が少ないと結論づけるには早計である。考えられることは、南極洋へ回遊するイワシ鯨は、季節的に遅いため、本調査が比較的早い時期に終了していることである。

南極洋のニュージーランドおよびオーストラリア域は、ザトウ鯨の濃密な分布域であり、過去の資料による分布域を、本調査においては比較的充分調査したことになるが、一頭の発見もなかつた。

また、近年ニュージーランドおよびオーストラリアにおけるザトウ鯨の捕獲量が、急激なる減少傾向を示している。ニュージーランドおよびオーストラリアにおいて捕獲されるザトウ鯨が、それらの海域と東西方向に移動することなく、南極洋との間を、季節的に南北回遊することは、数多くの標識結果から明らかにされている。また、南極洋におけるザトウ鯨の捕獲は特別に以前から国際捕鯨条約で制約を受け、また1963年度漁期から、全面的に捕獲が禁止された。この様に、南極洋のザトウ鯨は、他の鯨種に比較して非常に厳しい捕獲制約をもうけて保護されて来たにも拘らず、今回の調査で発見されなかつたことは、何らかの理由でその資源は非常に減少していると解釈される。

注）本文は、すでに発表した鯨研通信165号の一部である。

## 2. 1964/65年度南極洋捕鯨の概要について

奈 須 敬 二 （鯨類研究所）

今漁期における出漁団数は15船団で、捕獲は表一に示したようにヒゲ鯨6984 B.W.U（B.W.U＝シロナガス換算で、その基準は次の通り、シロナガス：1.0＝ナガス：2.0＝イワシ：6.0＝ザトウ：2.5、マッコウ鯨は適用されない）、マッコウ鯨8820頭である。ヒゲ鯨の中では、表二から判るようにイワシ鯨の捕獲増加が特に顕著となつていて、昨年度の捕獲のほぼ2.4倍に相当する19845頭、この数字は南極洋捕鯨における最高値である。

オ1表 昭和39/40年度南鯨における各国の捕獲数と船団数

	シロナガス	ナガス	イワシ	B.W.U.	マッコウ	船団数
ノルウェー	—	701	5,506	1,273	1,617	4
日本	—	4,780	10,402	4,125	3,071	7
ソ連	19	1,824	3,937	1,586	4,132	4
計	19	7,305	19,845	6,984	8,820	15
サウス・ジョージア	—	503	506	336	141	

(注) 捕獲数は流失鯨を除く。

マッコウ鯨は40°S以北を含む。

オ2表 最近4ケ年の世界による鯨種別捕獲数

	シロナガス	ナガス	イワシ	B.W.U.	マッコウ	船団数
1960/61	1,740	27,374	4,310	16,434	4,666	21
61/62	1,118	26,438	4,749	15,253	4,743	21
62/63	947	18,668	5,503	11,306	5,773	17
63/64	112	13,870	3,286	8,429	6,651	16

### 1) 漁場と海況

オ1図に示した漁場図は、10°W以西の海域につき表わし、捕獲数は緯度2度、緯度5度毎に纏めたものである。

主漁場は40°W～60°Wにいたる海域の、南極収束線から北側に形成されている。

ナガス鯨とイワシ鯨の漁場は、ほぼ同一海域ではあるが、オ3表から判るように、概して、イワシ鯨が北寄りに分布しているのは、既に知られている通りである。

オ3表 ナガスおよびイワシ鯨の緯度別捕獲割合

	44°	46°	48°	50°	52°	54°	56°	58°
ナガス	0.2	1.27	1.85	3.68	2.04	8.2	3.2	
イワシ	4.0	1.63	2.99	2.03	1.85	6.4	4.6	

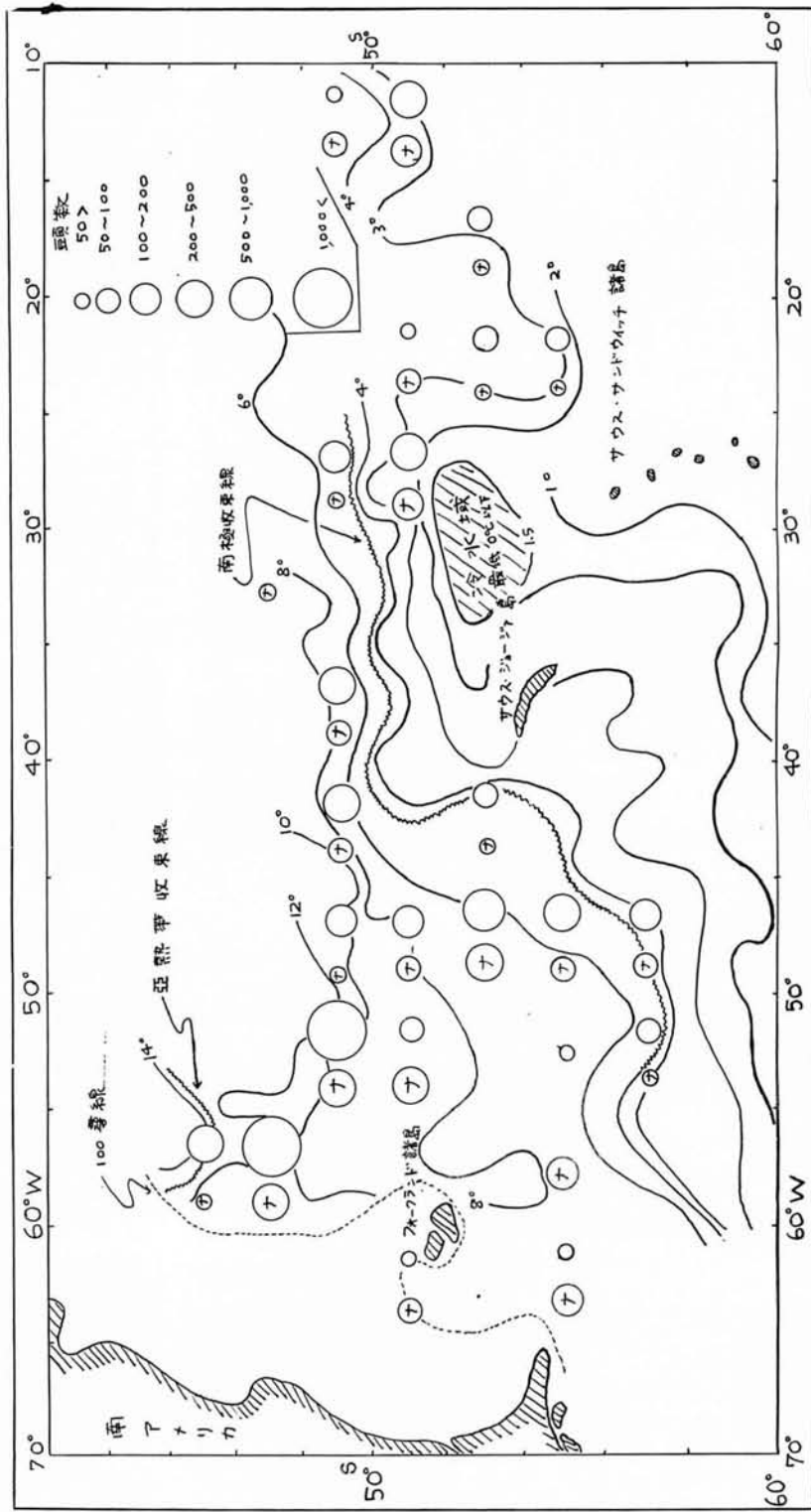


表2図 捕鯨鯨と表面水温の分布、丸印の中のナはナガスクリュー、白丸はイワシクジラを示す。

なお、イワシ鯨漁場は特に、 $45^{\circ}\text{S}$ 、 $57^{\circ}\text{W}$  附近のブラジル海流の EXTENSION と考えられる舌状形暖水塊域に形成されているように、南下する暖水塊の先端附近に形成される傾向がある。

漁場に関する今漁期の特徴は次の通り。

- 1  $30^{\circ}\text{W}$  以西における漁場は、ほとんど南極収束線以北に分布している。
- 2 近年西の方へ偏位しているヒゲ鯨漁場の傾向が、今漁期は特に顕著で、主漁場は  $45^{\circ}$  以西に形成されている。

## 2) 餌料

フオー克蘭ド周辺で捕獲されたイワシ鯨の胃内容物から、ヤドカリに近い類の *Munida gregaria* が出現した(同定は根本氏による)が、過去における日本船団の操業した海域からの報告はないので、DISCOVERY REPORT に報告された若干の論文から要約しておこう。

*M. gregaria* の類は、“LOBSTER-KRILL”とも呼ばれていて、鯨の餌料としては古くから知られている。

*M. gregaria* はフオー克蘭ド周辺における代表的動物性プランクトンの一つで、その出現シーズンは、ほとんど夏期に限られ、どちらかと言えば浅い沿岸水系のプランクトンで、南米の太平洋岸では、 $41^{\circ}30'S$ 以南、大西洋岸では  $51^{\circ}\text{S}$  以南の  $200\text{m}$  以浅、表面水温では  $5.5^{\circ}\sim 9.0^{\circ}\text{C}$  の範囲に分布している。そして、この海域に棲息するクジラ、アザラシ、鳥および魚類の主な餌料となっており、ニュージーランド近海のザトウも捕食している。

*M. gregaria* と同類の *M. subrugosa* もフオー克蘭ド周辺に分布し、その北限は、太平洋側で  $50^{\circ}\text{S}$ 、大西洋側で  $35^{\circ}\text{S}$  となっており、大西洋側では、*M. gregaria* より高緯度に分布していることが判る。この種類は、沿岸特に、フオー克蘭ドの北西岸およびフエゴ島の北東沖に多く、またこれらの種類は、サウス・シエツトランド、サウス・ジョージアおよびヴーヴエツト諸島などの冷水域の分布はみられない。

*Munida* と同じ種類に属する *Pleuroncodes planipes* も鯨の餌料となっている。この種は、メキシコの太平洋岸に分布していて、イワシおよびザトウ鯨が捕食しており、またコク鯨の餌料ともなっていると考えられる。

なお、パタゴニアおよびメキシコで捕獲されるイワシ鯨の油が、他の海域に比較して黄色味を帯びているのは、餌料の種類に起因しているようである。